

「純粋な信仰」

～良い失敗と悪い失敗 なぜを見出す～

ピリピ3：5-14

私たちは子どもの頃、「なぜ？」と思ったことは周りいる人々に聞きながら育ってきたのではないかと思います。そしてその時、なぜということに対してしっかりと答えを得てきましたでしょうか。それとも答えがないまま、すなわち未解決のまま来ていることはないでしょうか。聖書を見てみると「なぜ」と感じることがたくさん出てくるのではないのでしょうか。神様はなぜこのような方法をとられたのか…また自分の人生においてなぜこのようなことが起こるのか…と想ってくださるのではないかと思います。そんな時、私たちはどのように乗り越えてきたのでしょうか。知恵によりましたか、それとも悪知恵やずるさによってでしょうか。今日はこの「なぜ」ということについて注目していきます。(ピリピ3：5～14)パウロはダマスコの途上にイエス様と出会い人生が180度変わりました。イエスキリストは信じる者を迫害する側から、イエスキリストを伝える人になりました。私たちはイエスキリストと出会いましたが、180度どころか360度回転し、変わらない姿で進もうとしていることに気づきます。ですから私たちは自らをしっかりと見ていかなくてはなりません。まずは今日の副題にもありますが、私たちは生きていく中で良い失敗と悪い失敗があるとすれば、それを区別できているのでしょうか。純粋な信仰を持つことができれば、これができるようになっていきます。私たちは純粋だと思いたいのですが、実はそうではないのです。私たちは良い状態が続くと調子に乗ってしまいます。時にそれは周りに悪影響を及ぼすこともある位です。それは初心を忘れてしまったり、現状に対して「なぜ」ということを考えなくなるからです。反対に私たちは世の光・地の塩として神によって遣わされた場所(職場、家庭など)において良い影響を与えていく必要があるのです。そのために私たちは先に救いを受け取ったのです。その良い影響を与えてほしくないのが悪魔です。ですから私たちは悪くなるように誘惑したり、罠に陥らせたりしてきます。(ピリピ3：5～14)パウロも同じように過去に犯したことについて責めを受けているのです。パウロはユダヤ人の中では裏切り者です。クリスチャンの中では昔は迫害していたやつだったということが言われていたのではないかと思います。ですからパウロの心の中には痛みと孤独感があつたのだらうと思います。パウロはそれに対して逃げることなく乗り越えたらこそ、パウロの新しい生き方が出来たのです。それは神様が計画したパウロの姿へ近づいているのです。私たちも同様です。今の困難を乗り越えると神様が造られた本来の自分に近づくことができるのです。私たちは歴史を勉強します。なぜ勉強するのでしょうか。様々な理由があると思います。その中に過去における悪い失敗をしてしまった時、その後どのような影響を与えてしまったのでしょうか。反対に良い決断をした時にもどのようにっていったのかということです。大きな時代流れやうねりの中でもその流れが間違っているのであれば、例えば1人になってもそれに流されることなく、正しいことができた人に注目したいと思います。私たちも同様に間違った行動をすることがあるかもしれません。ではその時、間違ったことに自ら気がつくでしょうか。そうではなく、私たちは周りから指摘されて気づくようになってしまいました。

■ 失敗について

日本には失敗を研究する学会があり、失敗についての定義が下記のようになっています。「失敗には、未知との遭遇による『いい失敗』と、『人間の怠慢による悪い失敗』の2つがある。重要なのは、不可避である『いい失敗』から物事の新しい側面を発見し、仮想失敗体験をすることで『悪い失敗』を最小限に抑えることである。失敗や事故が隠蔽され、教訓として生かされないまま同じことが繰り返されるなら、社会的な損失は計り知れない」とあります。この研究をしている会長はクリスチャンであり、これに対して聖書的なアプローチをして取り組んでいるのです。その方法として①感情的に反応しない。解説として→人間関係で問題が起こっても、すぐに感情的に反応しないことです。これは難しいことですが、非常に大切な点です。感情的に反応すると、すべての関係が瞬時に終わってしまいます。後には、嫌な思い出以外、何も残りません。そのためには、自らの感情を抑制する訓練を日頃からしておく必要があります。②原因を明らかにする。解説として→原因究明が難しくなる理

由は、責任追及と原因究明とを混同するからです。日本人の感覚では、「まあまあ、そこまで言わなくても」と、つい言いたくなります。その結果、本当は何か問題であったのかが明確にならないまま、一件落着になってしまいます。この段階で感情的になるなら、それはまさに責任追及と原因究明とを混同していることになり、そこから教訓を導き出すことは不可能になります。冷静な目が必要です。③将来、同じ過ちを犯さない方策を考える。解説として→原因が明らかになれば、では今後どうすればよいか明確になります。その過程で、自らの自己中心性が示される場合もあるでしょう。その場合は、自己反省、あるいは悔い改めが必要となります。④自分を赦すことを学ぶ。解説として→一度失敗すると、いつまでも立ち直れないで苦しむ人がいます。いつまでも自分を責めるのは、不毛な行為です。反省したなら、その後は自分を赦して立ち上がるのが大切です。という4つのポイントです。このポイントは聖書が語っていることと同じことです。私たちはこの4つのポイントから離れ、心の中で「私がダメなのよ」と結論づけるだけになっています。それは悲劇のヒロインのように「私ばかりこんな目に」という思いになってしまいます。日本人はこのスパイラルの中で生きている人が多いので、過去における失敗について1つひとつ向き合って解決していく必要があるのです。(2列1章～8章)旧約聖書の中に預言者エリシャとその従者のゲハジがいます。エリシャの従者として仕えておりましたが、エリシャに逆らいナアマン將軍の癒しの対価として金品をこっそり受け取りました。これによってゲハジは汚れの象徴であるらい病に侵されてしまい、エリシャの元を去ることになってしまいました。ゲハジは正しいことが分かっていたにも関わらず、いざという時に信仰による行いをすることができませんでした。神の計画はそれで終わりませんでした。エリシャの元を去ったゲハジは宮殿で働く者となり王に助言をするようになっていました。このように神様は悔い改めをするのであれば、失敗を失敗に終わらせなくすることができるのです。

■ ①なぜなぜ聖人になる。

私たちは「何でこんな目にあつたのか!」とついつい思ってしまうものです。しかし「なぜこのようなことが起こつたのか」を考えなければいけません。必ず原因があるのです。これは悪い時だけではなく、良い時にも同じようにしましょう。聖書の中の人物も悪い時は神様に頼っていますが、良い時に足元をすくわれている事が書かれています。悪い時には「忍耐し待つこと」をしなければいけません。良い時には「蓄え、用い、流し」しましょう。なぜをしっかりとしていければ、私が変わります。それが周りに影響していくようになるのです。ですから「なぜ」を探していきます。

■ ②熱さを忘れるべからず

私たちが今日あるのは、厳しい現実の中を通りぬけたからなのです。しかしその苦しかったことは本来の品格がある姿へ戻るために通った道です。それを忘れてしまつては意味がありません。ですから「純粋になぜ」と思って歩いていきましょう。そして苦しかったことを忘れてはいけません。私たちはそこから救われたのです。

■ ③最後までやりぬく

(ピリピ3：13-14)「兄弟たちよ。私は、自分はすでに捕らえたなどと考えるはしません。ただ、この一事に励んでいます。すなわち、うしろのものを忘れ、ひたむきに前のものに向かって進み、キリスト・イエスにおいて上に召してくださる神の栄冠を得るために、目標を目指して一心に走っているのです。」私たちは走り抜きましょう。途中であきらめてしまうことが多いのではないのでしょうか。私たちの今の幸せというのは将来得られる祝福の土台にすぎないものです。これで安心してはいけません。まだまだ大きなものを用意して下さっているのです。ナアマン將軍の部下がナアマン將軍の癒しを引き出す正しい行いをしたように、私たちの霊的な子どもたちが自分の支えになれるようになるまで走りましょう。マイナスが大きければ大きいほど、プラスも大きくなります。私たちは奇跡を生み出す神様を見上げているのです。この神様から離れてはなにもすることができません。過去の失敗も神様によって失敗で終わりません。それを信じて最後まで走りぬぎましょう。(要約者:平澤一浩)